

| | | | |
|----------|---|-----|---|
| 科目 | 電気工学実験実習 (Laboratory Work in Electrical Engineering) | | |
| 担当教員 | 佐藤 徹哉 教授, 道平 雅一 教授, 赤松 浩 教授, 加藤 真嗣 教授, 中村 佳敬 教授, 津吉 彰 特任教授, 酒井 昌彦 准教授, 河合 孝太郎 准教授, 榎木 有理沙 助教, [前期] 川合 聖 非常勤講師【実務経験者担当科目】 | | |
| 対象学年等 | 電気工学科・4年・通年・必修・4単位【実験実習】(学修単位I) | | |
| 学習・教育目標 | A4-E1(5%), A4-E2(5%), A4-E3(5%), A4-E4(5%), B1(10%), B2(10%), C1(30%), C4(20%), D1(10%) | | |
| 授業の概要と方針 | 座学で学んだ理論を実験で確かめ理解を深めさせる。また、各種制御機器等の取り扱い方法や応用を学び、社会で役立つ技術の習得を目指す。報告書作成方法を学び、提出期限内に報告する習慣を身に付ける。また後期には各研究室に配属し、エンジニアリングデザイン演習に取り組む。 | | |
| | 到達目標 | 達成度 | 到達目標別の評価方法と基準 |
| 1 | [A4-E1]データサイエンス演習を通じてデータサイエンスに関する実践的な応用基礎知識を習得する。 | | 実験ならびにレポート(口頭試問を含む)により評価する。 |
| 2 | [A4-E2]各種電気機器の実験においてその原理と実際を理解する。 | | 実験ならびにレポート(口頭試問を含む)により評価する。 |
| 3 | [A4-E3]マイコンの実験においてその動作原理を理解する。 | | 実験ならびにレポート(口頭試問を含む)により評価する。 |
| 4 | [A4-E4]電気設備に用いられるシーケンス制御について理論を理解する。 | | 実習ならびにレポートにより評価する。 |
| 5 | [B1]後期の実験として取り組むエンジニアリングデザイン演習において、取り組み内容と結果について残課題とともにまとめることができ、口頭発表し、質問に対し適切に回答できる。 | | エンジニアリングデザイン演習(取組・プレゼンテーション)により評価する。 |
| 6 | [B2]発表などでの確かな質疑応答ができる。 | | 的確な質疑応答ができることを、エンジニアリングデザイン演習(プレゼンテーション)により教員が分担して評価する。 |
| 7 | [C1]各種制御機器、計測機器の特徴を理解し、取り扱うことができる。また、座学で学んだ理論と実験結果の違いの要因が何であるか説明できる。 | | 実験ならびにレポート(口頭試問を含む)により評価する。 |
| 8 | [C4]演習テーマの背景と目標を的確に把握し十分な準備活動を行い、指導教員と連携しながら自主的に研究を遂行できる。 | | エンジニアリングデザイン演習(取組・プレゼンテーション)により評価する。 |
| 9 | [C4]計画を立て実験を行い、期限内に報告書を提出できる。報告書には、目的、原理、実験方法、使用器具、実験結果を正確に記述し、適切な考察ができる。 | | 実験ならびにレポートにより評価する。 |
| 10 | [D1]担当の演習テーマの背景と社会的意義をよく理解する。 | | エンジニアリングデザイン演習(取組・プレゼンテーション)により評価する。 |
| 総合評価 | 成績は、レポート40% プレゼンテーション10% 実験実習への取組40% エンジニアリングデザイン(取組)10% として評価する。100点満点で60点以上を合格とする。未提出物があれば、原則として29点以下の最終成績となる。レポートには口頭試問を含むことがある。 | | |
| テキスト | プリント | | |
| 参考書 | 関連科目の教科書 | | |
| 関連科目 | 制御工学, 電気回路, 電子回路, 電子工学, 電気機器, 数値解析, 情報処理, 計算機工学, 応用数学 | | |
| 履修上の注意事項 | 提出期限は指示がない限り原則翌週の朝8:50とし、正当な理由がある場合に限り期限後も受領する。提出物の遅れは、各テーマの「実験実習への取組」に対し、1日につき満点の6%減点(50点満点の場合3点減点)を原則とする。関連科目について復習予習しておくこと。 | | |

授業計画(電気工学実験実習)

| | テーマ | 内容(目標・準備など) |
|----|--|--|
| 1 | ガイダンス1(安全対策・テーマ説明など) | 前期に行われる各テーマの解説を行う。機器取扱,作業時における安全面での注意点について説明する。また,レポート作成に必要な知識(図表の書き方,使用器具,参考文献,考察等)を説明する。 |
| 2 | ガイダンス2(専門分野の理解) | 教員の研究活動や企業等による講演を通じて,技術的活動の社会的意義を理解する。 |
| 3 | フィルタの実験(1) | オペアンプを用いたフィルタを製作し実験を行う。 |
| 4 | フィルタの実験(2) | オペアンプを用いたフィルタを製作し実験を行う。 |
| 5 | フィルタの実験(3) | フィルタの実験(1)~(2)に関するまとめ(口頭試問を含む)を行う。 |
| 6 | マイコンの実験(1) | マイクロナンピュータ実験装置でIO装置のスイッチやLEDを使ってステップモータを制御する実験,この実験を通してアセンブラ言語によるサブプログラム,割り込みプログラムを学ぶ.MPUの働き,IO装置の使い方,ステップモータの特性を学ぶ。 |
| 7 | マイコンの実験(2) | マイコンの実験(1)の続きを行う。 |
| 8 | マイコンの実験(3) | マイコンの実験(1)~(2)に関するまとめ(口頭試問を含む)を行う。 |
| 9 | シーケンス制御の実験(1) | シーケンスの基本的操作法,基本命令を理解し,基本問題のプログラミングと確認を行う。 |
| 10 | シーケンス制御の実験(2) | シーケンスの応用命令の理解とともに,応用問題のプログラミングと確認を行う。 |
| 11 | シーケンス制御の実験(3) | 搬送装置を用いて応用問題のプログラミングと確認を行う。 |
| 12 | シーケンス制御の実験(まとめ) | シーケンス制御の実験(1)~(3)で学習した内容に関する総合的な試験を行う。 |
| 13 | データサイエンス演習(1) | データサイエンス演習を実施する。 |
| 14 | データサイエンス演習(2) | 前回の続きを実施し,データサイエンスの利活用を学習する。 |
| 15 | データサイエンス演習(3) | データサイエンス(1)~(2)に関するまとめ(口頭試問を含む)を行う。 |
| 16 | エンジニアリングデザイン演習 | 各班でエンジニアリングデザイン演習に取り組む |
| 17 | エンジニアリングデザイン演習 | 各班でエンジニアリングデザイン演習に取り組む |
| 18 | エンジニアリングデザイン演習 | 各班でエンジニアリングデザイン演習に取り組む |
| 19 | エンジニアリングデザイン演習 | 各班でエンジニアリングデザイン演習に取り組む |
| 20 | エンジニアリングデザイン演習 中間発表 | 班ごとに中間発表を行う。 |
| 21 | エンジニアリングデザイン演習 | 各班でエンジニアリングデザイン演習に取り組む。 |
| 22 | エンジニアリングデザイン演習 | 各班でエンジニアリングデザイン演習に取り組む。 |
| 23 | エンジニアリングデザイン演習 | 各班でエンジニアリングデザイン演習に取り組む。 |
| 24 | エンジニアリングデザイン演習 | 各班でエンジニアリングデザイン演習に取り組む。 |
| 25 | エンジニアリングデザイン演習 | 各班でエンジニアリングデザイン演習に取り組む。 |
| 26 | エンジニアリングデザイン演習 | 各班でエンジニアリングデザイン演習に取り組む。 |
| 27 | エンジニアリングデザイン演習 | 各班でエンジニアリングデザイン演習に取り組む。 |
| 28 | エンジニアリングデザイン演習 最終発表準備 | 各班でエンジニアリングデザイン演習に取り組んだ結果を発表用にまとめる。報告書も作成する。デモの準備も行う。 |
| 29 | エンジニアリングデザイン演習 最終発表準備 | 各班でエンジニアリングデザイン演習に取り組んだ結果を発表用にまとめる。報告書も作成する。デモの準備も行う。 |
| 30 | エンジニアリングデザイン演習 最終発表 | 班ごとに最終発表を行う。 |
| 備考 | 中間試験および定期試験は実施しない。 そのため,授業計画は変更する可能性がある。【実務経験者担当科目】 | |